



(289)

小学校中・高学年向け

年組

2025年11月21日付・下野新聞22面

記事は加工しています

「餃子のまち宇都宮」きつかけは

今や全国的知名度を誇る「餃子のまち宇都宮」。だが、まちおこし前は餃子と言えは「ニンニクくさい」とのイメージもあり、まちの顔となる存在ではなかった。どんなきつかけで餃子のまちづくりが始まったのか。経緯をひもとき、立役者たちに話を聞いた。
(増田明子)

宇都宮

今月1、2日に宇都宮城址公園で開かれた「宇都宮餃子祭り」は、約16万人(主催者発表)を集客した。その盛況ぶりに目を細めるのが、元市職員の塚田哲夫さん(69)だ。



と当初は研修の担当者に渋い顔をされた」と塚田さんは懐かしむ。5人は「餃子」といえば宮餃子」と題し、餃子会設立やイベントの展開など、餃子で宇都宮を売り出す方策を発表した。

「宇都宮がくさいと思われ」と嫌だ」との声もあったが、『日本一』のキーワードは面白いと考えた」

発表は広く報道され注目を浴びた。それを具現化したのは市商工観光課にいた故沼尾博行さんだった。

新たな観光資源を探していた沼尾さんは、餃子店を訪ね歩いてまちおこしを呼びかけ、宇都宮餃子会の発足に尽力した。同会関係者は「店主たちの意見が合わず空中分解しかけたが諦めなかった。彼の粘り強さが



餃子のまちおこしを提案した市職員研修の資料を手にする塚田さん(左)と宇都宮餃子会の鈴木専務理事兼事務局長

なければ餃子会はなかった」と感謝する。

沼尾さんはテレビ局にも売り込んだ。タレントの山田邦子さん(65)が「餃子のまち? 面白いじゃない」と興味を示し、バラエ

ティー番組で7週にわたり「宇都宮餃子大作戦」を放映。「餃子のまち」は一気に全国区となった。

順調に見えた餃子のまちだったが、東日本大震災が発生した2011年当時は観光客が減り、店をたたむ餃子店も出ていたという。

この状況で手腕を発揮したのが、宇都宮餃子会の専務理事兼事務局長の鈴木章弘さん(53)だ。経営する広告会社を譲り同年から同会に常駐。食品会社との連携や多様な広報戦略、4力所に分散していた餃子祭りを集約してフェス化するなど、アイデアと巧みな手法で誘客効果を高めてきた。

市によると、昨年の市観光入込客数1574万人の6割が餃子会を目的の一つに訪れた。市職員研修から始まった「餃子のまち宇都宮」。立役者たちの熱い情熱は世代を超え、今もまちを活気づけている。

(毎週水、木、金曜掲載。県央版は金曜)

熱い思い、世代超え継承

設問

【1】見出しの空欄に当てはまる5文字の言葉を、記事の中から探して書きましょう。

【2】4年生の下野さんは、「『餃子のまち宇都宮』誕生の立役者たち」と題した紹介ポスターを作るために、記事から情報を集めてメモをしています。記事を読んで、右の(1)～(5)に当てはまる単語や文章を書きましょう。

【3】右の「2、記事を読んで」の欄に、あなたならどのような感想を書きますか。まとめましょう。

メモ

○「『餃子のまち宇都宮』誕生の立役者たち」

1、3人の偉大な立役者たち

①塚田哲夫さん→35年前、餃子で知名度アップを提案。

・雑誌の記事で、【(1)】

】ことに気付く。

・「『餃子』といえば宮餃子」と題し【(2)】

】設立やイベント

開催などの方策を発表。

②【(3)】さん→塚田さんらの発表を具現化した。

・餃子店を訪ね歩き、まちおこしを呼びかけ、【(2)】

】発足に尽力。

・【(4)】にも売り込み、番組で7週にわたり「宇都宮餃子大作戦」を放映。→餃子のまちは一気に全国区へ。

③鈴木章弘さん→東日本大震災後の厳しい状況の中、宇都宮餃子をさまざまな方法でPRし、誘客効果を高めた。

・食品会社との連携、多様な広報戦略。

・【(5)】

】

2、記事を読んで

【

】